

「平和と公正をすべての人に」

朝倉東小学校4年

矢野 新汰

最近、SDGsという言葉をよく耳にします。学校でも勉強しました。環境問題や気候変動の事をよく言われるけれど、僕はその中でも、「平和と公正をすべての人に」という目標について考えることにしました。「平和で、だれもが受け入れられ、すべての人が法や制度で守られる社会をつくらう」という目標がなぜできたのかを調べていくと、世界では、五分に一人、子供が暴力によって亡くなっている事を知りました。世界的に

みると、家庭での、子供に対する暴力が法律で禁止されている国は少なく、わずか九%しかないそうです。僕にとって、家は、楽しく安心してくらせる場所ですが、それができない子供がたくさんいると考えると、とても悲しくなりました。また、もうひとつのデータによると、四人に一人の子供が「法的に存在していない」とかいてありました。どういうことなのか気になってお母さんに聞いてみました。僕たちは、ひとりひとり、生まれた時に出生届を役場に出すのだそうです。それがないと、予防接種が受けられなかったり、学校に入学できなかったり、犯罪に巻き込まれても守ってもらえなかったりなど、たくさん問題が起こってしまうのだそうです。日本ではなかなかないようですが、インド、ナイジェリア、エチオピア、パキスタン、コンゴ民主共和国などでは、たくさんの子供が存在していない事になっているようです。

僕は、当たり前前に夏休みをむかえて、家族

と家で笑って過ごす事ができますが、それができない人達がたくさんいると分かり、とてもおどろきました。どうしたらこんな事がなくなるのかと考えましたが、子供だけではどうしようもない事もたくさんあります。暴力を受けている子供達は、だれかに助けを求められる環境が整ってほしいなと思います。同じ子供として、世界の子供達が笑って過ごせる事を願います。

自分にできる事を自分らしく

三奈木小学校4年

池田 瑛仁

ぼくは、「ハチドリのひとつしずく」と言う本をよみました。

この本はお母さんがぼくに教えてくれた本です。

ぼくは、あまり自分に自信がないほうです。でも、ぼくにもできる事があるんだと、読んで心が軽くなりました。

森火事に一てきずつ水を運ぶハチドリを

見て、森からにげた動物たちは、

「そんなことをして何になるんだ」

と笑いましたが、ハチドリのクリキンデイは、こう言いました。

「私は、私にできることをしているだけ。」
そう答えました。

ぼくも、自分では一生けん命していた事を笑われたりした事があります。悲しい気持ちになった事があるけれど、この本を読んでハチドリを見て、自分にできることを自信をもってやろうと思いました。

さあ、この物語のつづきは、あなた自身が、えがいてください。と最後に書いてありました。

ぼくのこれからは、自分らしく生きていきたいです。

みなで自分らしく生きられる世界を作りたいです。

入選

しょうがいをもった人のオリ ンピック

朝倉東小学校4年

林 怜奈

世界には、しょうがいをもった人がいます。しょうがいをもった人のオリンピックを「パラリンピック」といいます。それは、ロンドンのいなかの病院内で行われたアーチエリーの大会が始まりだそうです。

日本では、東京パラリンピックがしょうがいしゃスポーツを広めるきっかけになったそうです。わたしが、パラリンピックで見たことがあ

る競技は、車いすテニスや車いすバスケットボール、水泳、トライアスロンなどです。

ぎ足をつけて走る人や、しかくしょうがいをもった人がガイドといっしょに走るのを見て、自分だったら、すぐにバランスをくずしてたおれてしまいそうなので、そんな中でも走れるのがすごいなと思いました。また、水泳では、しかくしょうがいをもった選手達が安全に泳ぐために、かべがあることを知らせる「タツピング」をしてくれる人がいるそうです。自分がもし目をつぶったじょうたいで泳ぐと考えると、目の前が真っ暗でこわいし、きっと泳げないと思うので、目が見えないのに泳げるのはすごいなと思いました。パラリンピックに出る選手は、きつといっぱい練習をして、いろんなことをのりこえてそこにいるのだと思いました。

今年のパラリンピックでは、どの選手も練習の成果が出るように、わたしもおうえんしたいと思います。今年開さいされるパラリン

ピックでは、今までに見たことのない、たくさんの競技や種目を見てみたいと思います。朝倉市出身の草場選手も、車いすラグビーに出るそうです。どの選手も、練習の成果をはっきして、せいっぱいがんばってほしいです。

いっしょに遊ぼう

秋月小学校4年

柴田 愛禾

友達に「いっしょに遊ぼう。」と言われて、「わたしも友達の仲間なんだ。」と思いました。一年生が終わって、二年生に上がったときに、「いっしょに遊ぼう。」といわれて心のおくから「うれしい。」と思いました。すぐに「うん。」とへんじをしてすぐに外に行きました。外に行くときみんながまっけていってくれて、走り回って遊びました。昼休みが終わると、わたしは、「また遊びたい。」と思いました。また、「あしたも遊びたい。」と思いました。そして

つぎの日の昼休みに自分から「いっしょに遊ぼう。」前は、勇気がなかったから言えなかったけどきのう遊んだときが楽しくて、ついわたしの口からでてきてしまいました。いっしょんはずかしいと思ったけどすぐにみんなが、「いいよ遊ぼう。」と、いってくれてほっとしました。いままではずっと一人だったけどみんなと遊ぶとすごく楽しいなと気づきました。そしてこれからは自分から遊びにさそおうと決めました。自分から言うといままで言えなかったことができるようになって気持ちがあつきました。それ以後から「言っておけばよかったです。」と思ってしまって、こうかいするからです。でも、あんまり、自分から言うとき、相手が、「しつこいな。」と思ってしまうから、少しひかえめにして、何日かに一回にして自分から、「いっしょに遊ぼう。」と言うことにしました。でも、「いっしょに遊ぼう。」と言ってみんなと遊んでいる日は、たいくつしないし楽しいからいいけどさそっていない日は

たいくつで、何もすることがないからひまだから、「いっしょに遊ぼうと言う日をもっと多くしようかな。」と思いました。これまで学校で遊んだことがなかったけどたくさん遊ぶようになってからは学校がもっと楽しく感じられるようになりました。まだ学校で遊んだことがない人にも自分から「いっしょに遊ぼう。」や、友だちにさそわれたりして、もっと楽しい学校生活を送ってほしいです。